

事後評価に対する意見一覧（河内長野市上下水道事業 経営懇談会委員より聴取）

1.「河内長野市における循環のみちの実現(その3)」について

1-1.計画の成果目標(定量的指標)の設定および事業の効果について(評価指標の実現状況、事業効果の発現状況等)

- 1. 指標の設定について。快適な暮らしの確保には、汚水の処理も必要なケースがあると思います。汚水処理という点からは下水処理だけでなく、浄化槽での処理対応も考えられるので、上下水道事業ビジョンで掲げている「汚水処理整備率」の向上も指標としてはどうか。
- 2. ○目標値の達成状況での差が出た要因の記載について。下水道整備済区域の人口減少は指標の計算式の分子だけでなく分母にも影響するので、分母のことにも触れる必要があるのではないかと。例えば分母の減少割合よりも分子の減少割合の方が大きいとかの文言の追加が考えられるのではないかと。
- 工事を先送りすることによって、下水道処理人口普及率をはじめ、各指標は目標値を下回ったものと思われそうです。一つの要因によって多くの指標が目標を下回る状況は、複数の指標を設定する意義を見出しづらくするため、指標の相互の関連性についても配慮する必要があるものと考えます。
- 工事先送りによる事業延長の減少で、下水道処理人口がR6年度末で95.3%へと上昇したことは、うれしい事である。しかし最終目標を達成できなかったもので、引き続き努力して頂きたい。
- 目標が達成出来なかったのは、財政上の制限、とあるので予算を再度考え見直してみるとかはいかがでしょうか？

1-2.計画の要素事業の達成状況について(要素事業の進捗状況等)

- 執行体制や財政上の制限が当初計画と実績値との乖離を生んだ原因と理解いたしました。今後のことを考慮すれば、執行体制や財政上の制限の予見が困難であった状況について言及があると良いように思います。
- 汚水管渠の実施設計で緊急度の高い管路が想定より増加したため+1.6kmとあるが、これからも増加すると思うがこのままの計画で良いのか。

1-3.その他(今後の方針等)

- 近年の物価高騰を考えると、工事を先送りするほど事業費が当初の見込みより増大することが予想され、事業の進捗に悪影響を及ぼすことが予想されます。財政および執行体制上の理由とのことですが、可能な限り、進捗ペースの維持に努めていただけたらと思います。
- 「事後評価（案）」の「○事後評価の実施体制、実施時期」での実施体制で庁内の評価体制についても記載してはどうか。資料2「社会資本整備総合交付金に係る計画等について（抜粋）」の【中間評価及び事後評価】の3において、地方公共団体自身でまず評価を行うことになっていると思いますので。